

教職ブラッシュアップ編 「ICT活用（GIGAスクール構想）」

茨城大学 准教授
小林祐紀



独立行政法人教職員支援機構

ICTを導入することで教育の質を高める

GIGAスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの
教育実践の蓄積

×

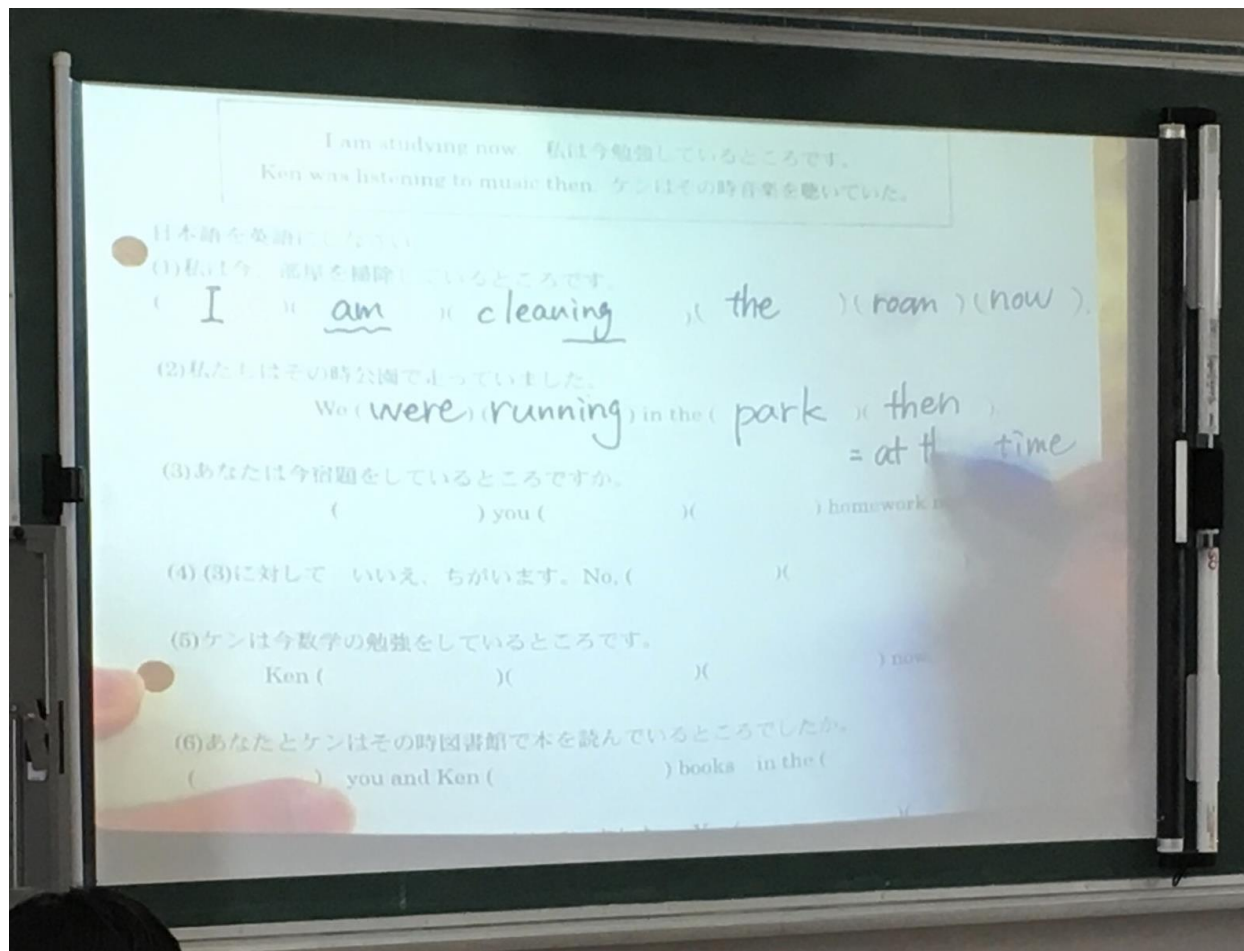
ICT

=

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの
授業改善

文部科学省（2020）GIGAスクール構想の実現へ

教師がICTを活用する



手元を大きく映す
実物投影機の活用

児童生徒と同じものを
投影し解説することで
わかりやすい授業を実現する

教師がICTを活用する



手元を大きく映す
実物投影機の活用

教科書や資料を拡大提
示することで**視線を上
げ注目させる**

教師がICTを活用する



画面に触れて操作できる
電子黒板の活用

アニメーションや実際の
楽器の音が鳴る工夫
によって児童生徒の
学習意欲を高める

大きく提示することの8類型

授業内容を振り返る



わかりやすく説明する



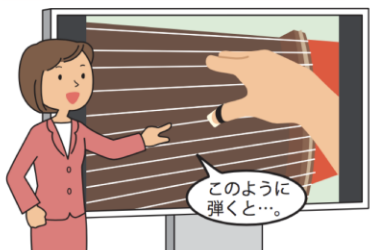
実演でやり方を示す



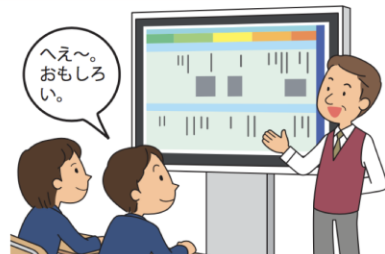
児童生徒に考えさせる



明確に伝える



興味・関心を高める



児童生徒が発表する



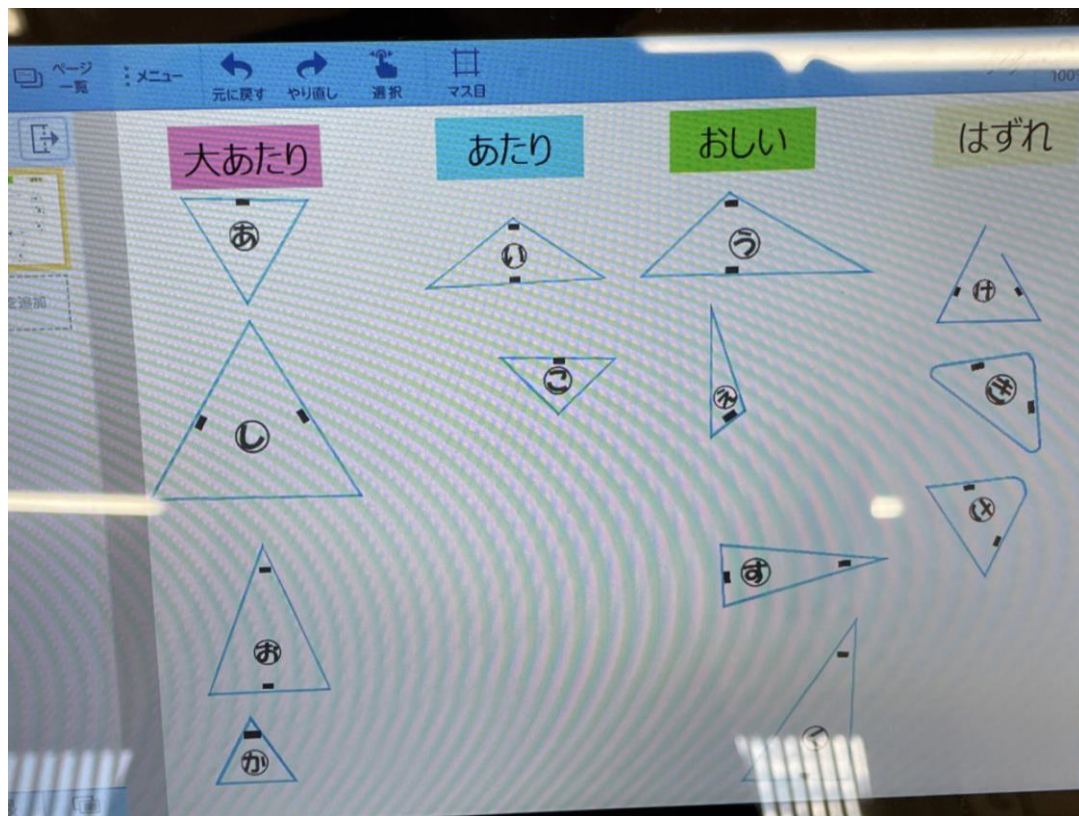
知識・スキルを定着させる



文部科学省（2015） 授業がもっとよくなる電子黒板活用

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/08/09/katsuyobamensyu.pdf

児童生徒がICT（1人1台端末）を活用する



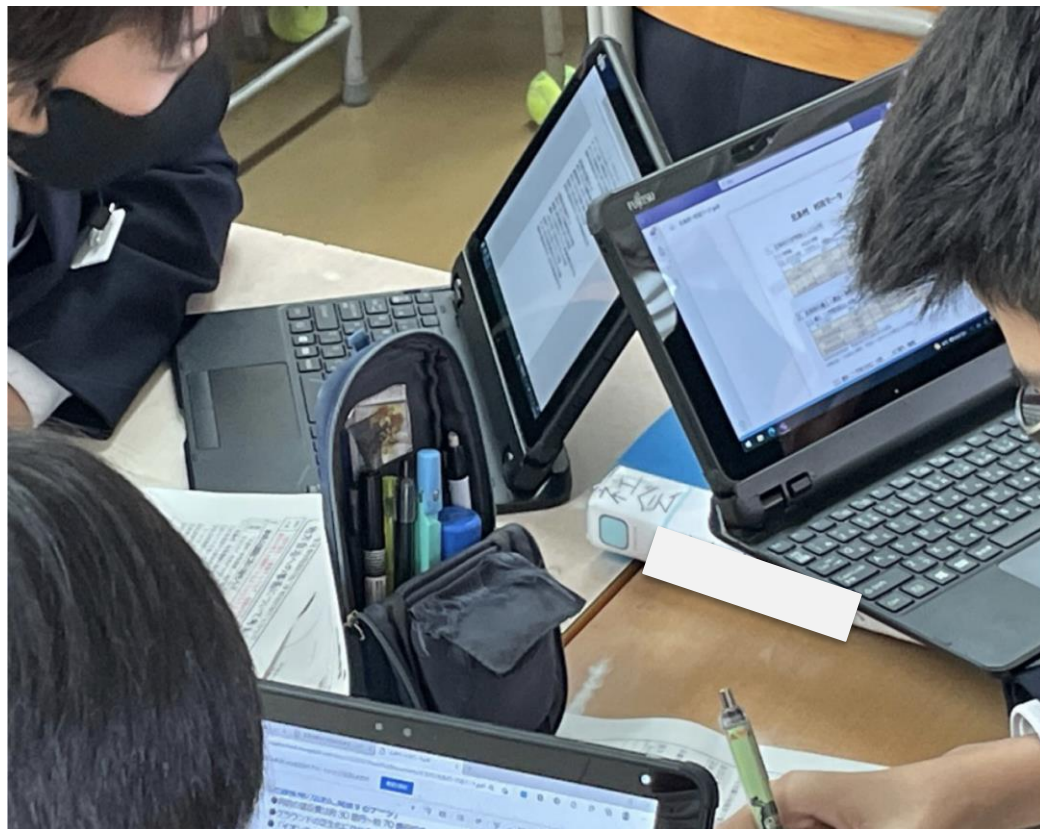
操作を伴う学習活動
→ **試行錯誤**
まとめを録音する
→ **学習内容の定着**

児童生徒がICT（1人1台端末）を活用する



1人1人が確認した内容を
協働の場面で交流する

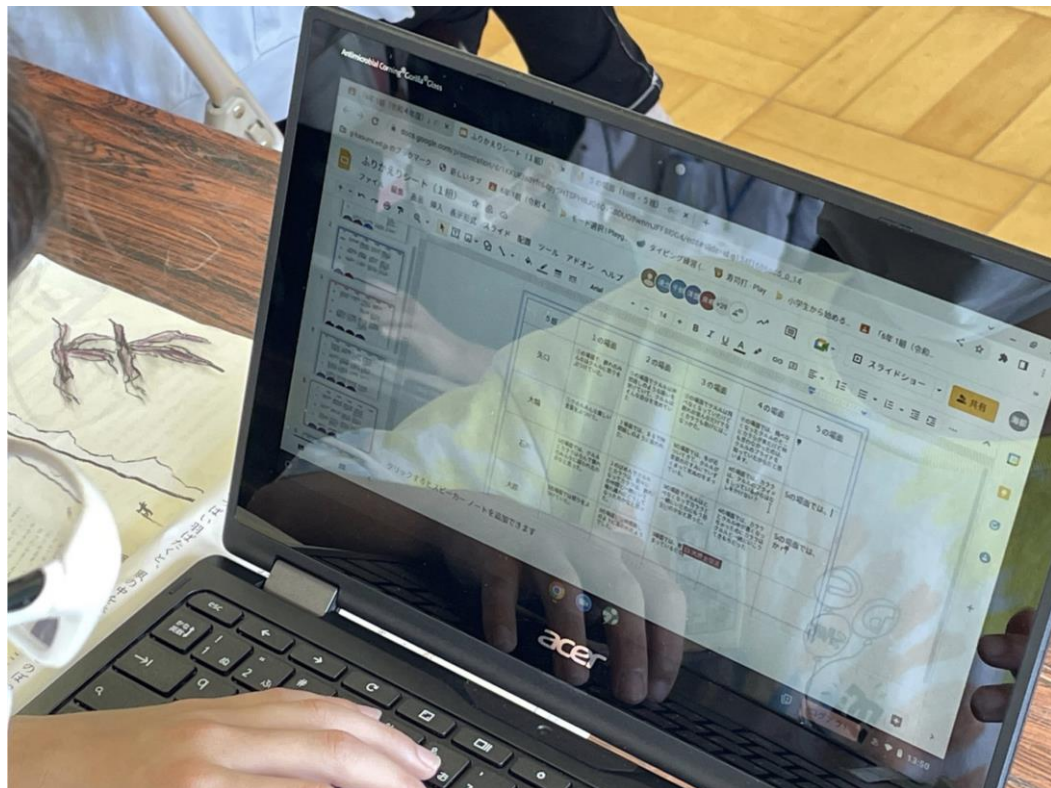
児童生徒がICT（1人1台端末）を活用する



複数のデータを**クラウド**を用いて共有する

1人1人が学んだ後に互いの考えを持ち寄って**最適な解を見出す**

児童生徒がICT（1人1台端末）を活用する



クラウド上のスライド作成アプリを使用する

毎時間の学習の振り返りを**デジタルデータで蓄積**する

児童生徒がICT（1人1台端末）を活用する



自分が書いたものを声に出して読むことが難しい場合には、紙やホワイトボードに書いたものを提示したりICT機器を活用したりして発表するなど、**児童の表現を支援するための**多様な手立てを工夫し、**自分の考えを持つことや表現することに対する自信を持つことができる**ような配慮をする。

文部科学省（2017）初等教育資料平成29年3月号(No.951) 76頁 赤字部分是小林が加筆した

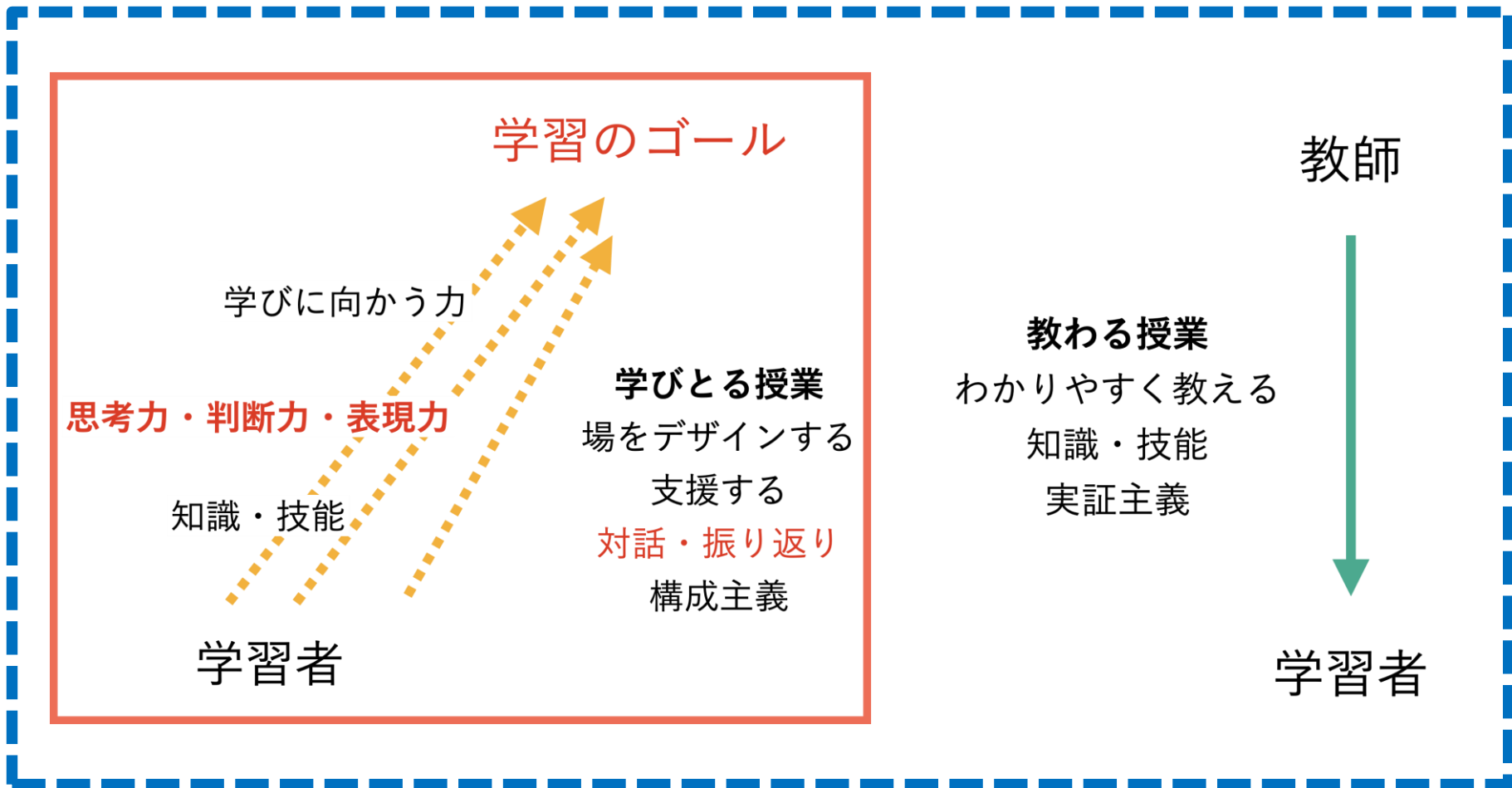
児童生徒がICT（1人1台端末）を活用する ・ 教師がICTを活用する



ヒントや考えるための
素材から
試行錯誤する

デジタル教科書の活用であっても他のICT活用と同様の考え方が重要

学習は「学ぶ」と「習う」



これまでの知見も大切にしつつ新しい学びを追求する

主体的・対話的で深い学びの実現

(「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善) について (イメージ)

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・ 「キャリア・パスポート(仮称)」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成



【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより正当なものとしたりする
- ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく